

平成 25 年度 第 2 回 尾道市公立大学法人評価委員会 議事要旨

日時：平成 25 年 7 月 23 日（火）13 時 30 分～14 時 40 分

場所：尾道市役所 3 階 第 1・2 会議室

報告事項：1 平成 25 年度第 1 回尾道市公立大学法人評価委員会議事要旨について
議 題：1 平成 24 事業年度業務実績評価について
2 その他

【報告事項】

1 平成 25 年度第 1 回尾道市公立大学法人評価委員会議事要旨について

平成 25 年度第 1 回評価委員会議事要旨について、審議の結果、全員一致で原案どおり承認することとし、速やかに公開することとした。

【議 題】

1 平成 24 事業年度業務実績評価について

平成 24 事業年度業務実績評価について、事務局の説明の後に、次の議論があった。

2 全体評価

（委員） 平成 24 年度及び平成 25 年度の年度計画に「検討する」と記載した項目が多い。年度計画に具体的な方策を記述するよう、全体評価の中に記載できないか。

（委員） 4 ページ目中段の＊印 4 項目を追記している。一般市民の感覚で見たとき、退学率、就職率、入試の状況等は大学の状況を判断する重要な材料となる。

（委員） 具体的な成果としてあげている「教育職員免許状、学芸員資格課程の堅持」は尾道市立大学が一番重点的に取り組んだことか。単に中期計画の項目順によるものか。対外的には 1 番目に記載されていると、1 番の重点項目と捉えられることになり、検討が必要だ。

（事務局） 中期計画の項目順に記載をしている。

（大学） 学芸員は美術学科、教育職員免許状は日本文学科、経済情報学科に該当し就職に直結する。経済情報学部においては、簿記 2 級、IT 関連の資格

があるが、必ずしもその資格が就職ということに結びついていない。そういった意味では、芸術学科、日本文学科はこのことに力を入れている。毎年20～30人は資格取得をしている。

学芸員の資格課程の堅持については制度改正に伴い従来の職員数では足りず、職員を1名増員し取り組んだ。

(委員) 評価書は、市民が大学を評価する際に見るものである。大学は、そのことを意識し、事業に取り組み、その結果が分かるように事業報告書を作成していただきたい。

(委員) 認証評価の際には結果を数値で示す必要がある。その為にもしっかりと資料を大学は作成しておくべきである。

3 項目評価

各委員より、評価についての補足及び、大学への要望を説明

第4 教育研究等の質の向上

1 教育の質の向上

(委員) コース制の特徴が学生に分かるよう説明すること。また、コース制が学生の希望と合致しているのか、浸透しているかのチェック機能を持たせることを期待する。

テキスト『英語で発信する日本文学: Essential English for Japanese Majors』を出版したことは教職員の重要な成果である。

「美術のための英語」開講等については、学生が国際理解を深めていくための活動として意義がある。成果が上がないのであれば、別の方法での開催を検討が必要である。

学会の大会「おのみち文学三昧」地域貢献が出来る人材育成を行ったことは評価できる。

各ゼミから最も優秀な卒業論文1編を選んで、巻末に全卒業論文の論題リストを付した論文集を発行し、学生の卒業論文への取り組み意欲の高揚を図ったことは評価できるので更に推進してほしい。

ディプロマ・ポリシーを作成したことについては、具体的活用することによる効果に期待する。教育には時間がかかるもので、6年間をとおして取り組んでほしい。各ポリシーがカリキュラム、入試、様々な活動の在り

方に反映され、各ポリシーの中身が実態を伴うよう取り組んでほしい。

経済情報学部においてはGPA（グレード ポイント アベレージ）制度を活用し、チューターと共同して学生に個別指導を行うことは重要である。また、学部の性格の違いで、客観的な評価をいかに行うかは難しいが、美術学部の複数教員で評価していく取り組みは評価できる。

全学的な公開授業への取り組みは、積極的に行っていただきたい。

2 研究の質の向上

（委員） リメディアル教育について、学生の基礎学力不足を補うためのものか、専門教育への入口としてのものか。前者であれば、大学がこの教育に対して手を取られすぎるのは良くないと思うが。

（大学） 入試の方式によりの基礎学力に差があり、それを補うものとして行っている。

（委員） 平成24年度は法人化して1年目ということで、基礎固めがどれだけできたかという視点で評価を行っている。次年度以降は、具体的な成果、数値を評価することになる。

「取組状況等を市民に分かりやすく示す観点から評価する」という基本方針があるが、見えるものが少なすぎて評価しづらい自己評価であった。今後は、評価すべき取組みを積極的に見せていただきたい。

3 学生への支援

（委員） 学生生活の支援について、力を入れたところが見えないが、非常に重要などころであり、早急に行っていただきたい。

第5 地域貢献及び国際交流

（委員） 国際交流については、特定の教員に依存せず組織的に取り組むとともに、尾道という場所を活かして積極的に進めていただきたい。

また、住民を挙げて行う観光への取組みに、大学が参加することも重要である。

（委員） 大学案内を見ると、大学が様々な活動を行っていることがよく分かる。大学案内を見た後に、メディアからの情報や、街中での学生の活動をみると一層理解が深まるので、評価を行う前に見たい。

(委員) ホームページ、ソーシャルネットワークをいかに利用するかが大学の生き残りで重要になってくる。有名私立大学は広報戦略に長けている。受験生や保護者がそういうものを目にする。尾道の名前を利用しない手はない。IT関係の詳しい教員もいる事なので、広報戦略が必要である。

第7 財務内容の改善

(委員) 経常利益が98百万円発生していて、経営努力によるものなのか当初予算が多かったのかを検討し、大学で内容を聴取した。経営努力、契約の改善等によって資金が浮いているとの心証を受けた。経常利益の発生原因と年度計画における財務内容の目標がどの様に結びついているかを照らし合わせて質問した。

外部資金の獲得における寄附については、卒業生名簿の整理をした段階であり、同窓会・講演会等の組織を活用する仕組みを確立する必要がある。

経費抑制については、インターネット契約、複数年契約等が、中期計画に掲げてある。年度計画では契約台帳の作成となっているが、昨年度取り組んだことは、年度計画以上のことであり、殆ど中期計画に沿ったものである。今後も、経費について削減できるものを探求していただきたい。

(委員) 剰余金の使途について、しっかりと考えて欲しい。ディプロマポリシー等に沿ったものとし、説明責任が果たせるものでなければならない。

また、大学の活動を積極的に行うことにより、もっと資金が必要ではないか、と言われるようになっていただきたい。

2 その他

なし